

評価について

このコロナ禍の中で、展示会を京セラ美術館で行っている。会場全体の中で、他の作品と比較して、違和感は感じられないか。見極めてみました。今回の作品は、構図が単純すぎたかなと感じました。この作品の狙いは自己の極限への挑戦が狙いでした。見学者には、その意図がどこまで伝わったかは判りません。私は評価は人にしてもらうのではなく、自分自身で評価するものだと思います。それを他人にしてもらい、その講評によって、次回の作品の参考にしようとする方もおられます。そういう方は賞に選ばれなかったのはなぜなのか、自分の作品と比較して、どう違うのかと、思い悩み、不安感を抱き、次の作品の目標が定まらない方も見受けられます。そんな中、先輩達に、ここは描きすぎだとか、この色を弱めたほうが良いとか指摘されると、次回の作品はそれを参考にして描こうということになり、その結果、作者の個性が奪われてしまう事も考えられます。自由に人がどう思おうが描き、自己の意図することが一歩でも近づけば、良しとすれば良いのではないか、一生描けなくとも、追及の過程を楽しめば良いのではないか。毎日毎日描いている中で、満足なんてない。常に自己との戦いだと感じております。

